

## メッセージ

### プラスチックごみ問題に関する国連環境計画シンポジウムから G20 大阪サミット及び関係閣僚会合へ

海洋プラスチックごみ問題の解決のためにはプラスチックごみの適正な管理が必要であることを踏まえ、UNEP 国際環境技術センターは、2019 年 5 月 22 日に「プラスチックごみ問題に関する国連環境計画シンポジウム」を日本国大阪市内で開催しました。

プラスチックごみ及びその海洋汚染の問題は、喫緊の地球規模課題です。陸上におけるプラスチックごみ問題に加えて、そこから海に流出するプラスチックごみは、生態系にとっても深刻な脅威となっています。また、波や紫外線の影響により微細化されたマイクロプラスチックを海洋生物が取り込むことで、食物連鎖を通じて最終的に人体へも影響を与える恐れもあります。

2019 年 3 月に開催された第 4 回国連環境総会では、「海洋プラスチックごみ及びマイクロプラスチック」及び「使い捨てプラスチック汚染対策」に関する決議が採択され、プラスチックごみやその海洋汚染の地球規模課題に対する UNEP の重要な役割が認識されました。

専門家や有識者が参加した本シンポジウムにおいて、プラスチック廃棄物の適正な管理をめぐる課題が洗い出されたほか、海洋プラスチックごみ問題の解決に資する環境技術、成功事例及び解決策が紹介されました。また、いかにして人々のこの問題への意識を高めていくかについても話し合いました。

シンポジウムでは、海洋プラスチックごみ問題の解決には、世界全体での取組が不可欠であり、日本をはじめとする各国の優れた廃棄物管理技術・処理技術を活用し、途上国の廃棄物管理能力を向上させていくため国際協力を推進していくことが重要であると認識されました。

また、第 4 回国連環境総会の決議に基づき、UNEP が国際的な科学技術的知見の蓄積や廃棄物管理の改善支援、国家・地域行動計画策定の支援等をしていくことが確認されました。さらに、UNEP 国際環境技術センターによる廃棄物の環境上適正な管理に関する国際的な各種支援を推進し、環境問題の持続可能な解決を目指すことが強調されました。

G20 は海洋プラスチックごみ問題を含む環境問題等、国際社会が直面する幅広い問題に取り組んできました。「国際経済協調の第一のフォーラム」として、G20 は海洋プラスチックごみ問題への取組を主導する必要があります。

G20 は、廃棄物管理の向上、海洋ごみの回収、革新的な解決策等により、プラスチックごみの海洋への流出を防ぐための取組を進める必要があります。加えて、UNEP をはじめとする国際機関とも協力しつつ、廃棄物管理に関する知見・技術を共有する等により、支援を必要とする国における海洋プラスチックごみ対策の取組を支援することは重要です。

来月開催される G20 サミット及び持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合において、日本国政府がリーダーシップを発揮し、これらの取組が大きく進展することを期待します。



シンポジウム参加者を代表して、  
UNEP 経済局長 リジア・ノロンハ  
2019 年 5 月 22 日